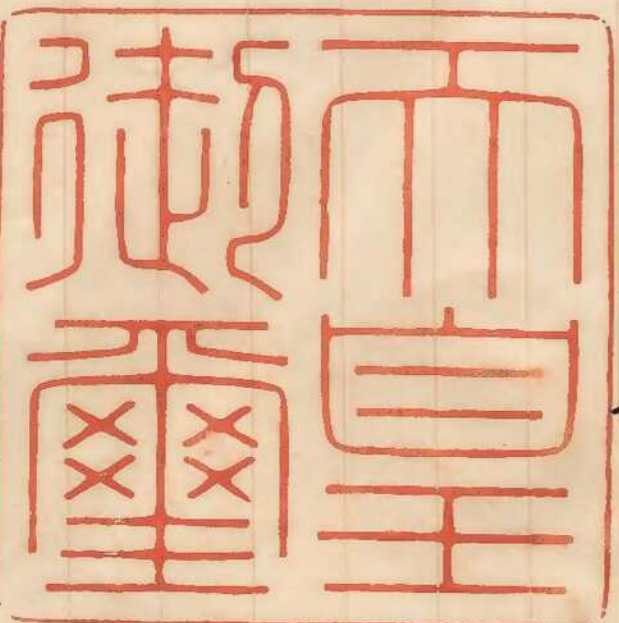


法華經



朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民法中修正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治三十一年六月十五日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文  
 海軍大臣侯爵西郷從道  
 大藏大臣伯爵井上馨  
 内務大臣子爵芳川顯正  
 外務大臣男爵西德二郎  
 陸軍大臣子爵桂太郎  
 司法大臣曾祿世  
 逓信大臣文部學士末松謙澄  
 農商務大臣金子堅太郎  
 文部大臣文部學士外山久

法律第九號

民法第四編第五編別冊ノ通之ヲ定ム  
 此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第九十八號民法財産  
 取得編人事編ハ此法律發布ノ日ヨリ之  
 ヲ廢止ス

民法

第四編 親族

第一章 總則

第二章 戶主及ヒ家族

第一節 總則

第二節 戶主及ヒ家族ノ權利義

務

第三節 戶主權ノ喪失

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

内

降

第一款 婚姻ノ要件

第二款 婚姻ノ無効及ヒ取消

第二節 婚姻ノ效力

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

第二款 法定財産制

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

第二款 裁判上ノ離婚

第四章 親子

第一節 實子

第一款 嫡出子

第二款 庶子及ヒ私生子

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

第三款 縁組ノ效力

第四款 離縁

第五章 親權

第一節 總則

第二節 親權、效力

第三節 親權、喪失

第六章 後見

第一節 後見、開始

第二節 後見、機關

第一款 後見人

第二款 後見監督人

第三節 後見、事務

第四節 後見、終了

第七章 親族會

第八章 扶養、義務

第五編 相續

第一章 家督相續

第一節 總則

第二節 家督相續人

第三節 家督相續、效力

第二章 遺產相續

第一節 總則

第二節 遺產相續人

第三節 遺產相續、效力

第一款 總則

第二款 相續分

第三款 遺產ノ分割

第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

第二節 承認

第一款 單純承認

第二款 限定承認

第三節 拋棄

第四章 財産ノ分離

第五章 相續人ノ曠缺

第六章 遺言

第一節 總則

第二節 遺言ノ方式

第一款 普通方式

第二款 特別方式

第三節 遺言ノ效力

第四節 遺言ノ執行

第五節 遺言ノ取消

第七章 遺留分

民法

第四編 親族

第一章 總則

第七百二十五條 左ニ掲ケタル者ハ之

ヲ親族トス

一 六親等内ノ血族

二 配偶者

三 三親等内ノ姻族

第七百二十六條 親等ハ親族間ノ世數

ヲ算シテ之ヲ定ム



傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又  
ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ溯リ其始祖  
ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依  
ル

第七百二十七條 養子ト養親及ヒ其血  
族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ  
血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ  
生ス

第七百二十八條 繼父母ト繼子ト又嫡  
母ト庶子トノ間ニ於テハ親子間ニ於

ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス

第七百二十九條 姻族關係及ヒ前條ノ

親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ  
生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ亦  
同シ

第七百三十條 養子ト養親及ヒ其血族

トノ親族關係ハ離縁ニ因リテ止ム

養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及  
ヒ其實方ノ血族ト養子トノ親族關係

ハ之ニ因リテ止ム

養子ノ配偶者直系卑属又ハ其配偶者  
カ養子ノ離縁ニ因リテ之ト共ニ養家  
ヲ去リタルトキハ其者ト養親及ヒ其  
血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム  
第七百三十一條 第七百二十九條第二  
項及ヒ前條第二項ノ規定ハ本家相續  
分家及ヒ廢絶家再興ノ場合ニハ之ヲ  
適用セス

## 第二章 戸主及ヒ家族

### 第一節 總則

第七百三十二條 戸主ノ親族ニシテ其  
家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族  
トス

戸主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊  
戸主及ヒ其家族ハ新戸主ノ家族トス  
第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル

父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル  
父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス  
第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離

婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタル  
トキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始  
ニ溯リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リ  
タル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子  
ノ出生前ニ復籍ヲ為シタルトキハ此  
限ニ在ラス

第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生  
子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其家  
ニ入ルコトヲ得ス

庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルト  
キハ母ノ家ニ入ル  
私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サル  
トキハ一家ヲ創立ス

第七百三十六條 女戸主カ入夫婚姻ヲ  
為シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト  
為ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意  
思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス  
第七百三十七條 戸主ノ親族ニシテ他  
家ニ在ル者ハ戸主ノ同意ヲ得テ其家

族ト為ルコトヲ得但其者カ他家ノ家  
族タルトキハ其家ノ戸主ノ同意ヲ得  
ルコトヲ要ス

前項ニ掲ケタル者カ未成年者ナルト  
キハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見  
人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百三十八條 婚姻又ハ養子縁組ニ  
因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者  
又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族  
ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト為サント欲

スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配  
偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要  
ス

婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ其家ニ  
在ル自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族ト  
為サント欲スルトキ亦同シ

第七百三十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ  
因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ  
離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍ス

第七百四十條 前條ノ規定ニ依リテ實

家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絶ニ因  
リテ復籍ヲ為スコト能ハサルトキハ  
一家ヲ創立ス但實家ヲ再興スルコト  
ヲ妨ケス

第七百四十一條 婚姻又ハ養子縁組ニ  
因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻  
又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ラン  
ト欲スルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實  
家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ同意ヲ為ササリシ

戸主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一  
年内ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得

第七百四十二條 離籍セラレタル家族  
ハ一家ヲ創立ス他家ニ入リタル後復  
籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ニ  
因リテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百四十三條 家族ハ戸主ノ同意ア  
ルトキハ他家ヲ相續シ、分家ヲ為シ又  
ハ廢絶シタル本家分家同家其他親族  
ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者

ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人  
ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十四條 法定ノ推定家督相續  
人ハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スル  
コトヲ得ス但本家相續ノ必要アルト  
キハ此限ニ在ラス  
前項ノ規定ハ第七百五十條第二項ノ  
適用ヲ妨ケス

第七百四十五條 夫カ他家ニ入り又ハ  
一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨

ヒテ其家ニ入ル

第二節 戸主及ヒ家族ノ權利義  
務

第七百四十六條 戸主及ヒ家族ハ其家  
ノ氏ヲ稱ス

第七百四十七條 戸主ハ其家族ニ對シ  
テ扶養ノ義務ヲ負フ

第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於  
テ得タル財産ハ其特有財産トス  
戸主又ハ家族ノ孰レニ屬スルカ分明

ナラサル財産ハ戸主ノ財産ト推定ス  
第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反  
シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス  
家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ  
指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主  
ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル  
前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間  
ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉  
スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家  
族カ其催告ニ應セサルトキハ戸主ハ

之ヲ離籍スルコトヲ得但其家族カ未  
成年者ナルトキハ此限ニ在ラス  
第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁  
組ヲ為スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコト  
ヲ要ス  
家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又  
ハ養子縁組ヲ為シタルトキハ戸主ハ  
其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内  
ニ離籍ヲ為シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ  
得

家族カ養子ヲ為シタル場合ニ於テ前  
項ノ規定ニ從ヒ離籍セラレタルトキ  
ハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其家ニ入ル  
第七百五十一條 戸主カ其權利ヲ行フ  
コト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ  
但戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ其  
後見人アルトキハ此限ニ在ラス

第三節 戸主權ノ喪失

第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル  
條件ノ具備スルニ非サレハ隱居ヲ為

スコトヲ得ス

- 一 滿六十年以上ナルコト
- 二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續  
人カ相續ノ單純承認ヲ為スコ  
ト

第七百五十三條 戸主カ疾病本家ノ相  
續又ハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ  
因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサル  
ニ至リタルトキハ前條ノ規定ニ拘ハ  
ラス裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ為ス



コトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

第七百五十四條 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ為スコトヲ得

戸主カ隱居ヲ為サスシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ為シタ

ルモノト看做ス

第七百五十五條 女戸主ハ年齢ニ拘ハ

ラス隱居ヲ為スコトヲ得

有夫ノ女戸主カ隱居ヲ為スニハ其夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但夫ハ正當ノ理由アルニ非サレハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百五十六條 無能力者カ隱居ヲ為スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百五十七條 隱居ハ隱居者及ヒ其  
家督相續人ヨリ之ヲ戶籍吏ニ届出ツ  
ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第七百五十八條 隱居者ノ親族及ヒ檢  
事ハ隱居届出ノ日ヨリ三個月内ニ第  
七百五十二條又ハ第七百五十三條ノ  
規定ニ違反シタル隱居ノ取消ヲ裁判  
所ニ請求スルコトヲ得  
女戸主カ第七百五十五條第二項ノ規  
定ニ違反シテ隱居ヲ為シタルトキハ

夫ハ前項ノ期間内ニ其取消ヲ裁判所  
ニ請求スルコトヲ得

第七百五十九條 隱居者又ハ家督相續  
人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届  
出ヲ為シタルトキハ隱居者又ハ家督  
相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ  
免レタル時ヨリ一年内ニ隱居ノ取消  
ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但追認  
ヲ為シタルトキハ此限ニ在ラス  
隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見

セス又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其親族  
又ハ檢事ヨリ隱居ノ取消ヲ請求スル  
コトヲ得但其請求ノ後隱居者又ハ家  
督相續人カ追認ヲ為シタルトキハ取  
消權ハ之ニ因リテ消滅ス  
前二項ノ取消權ハ隱居届出ノ日ヨリ  
十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リ  
テ消滅ス

第七百六十條 隱居ノ取消前ニ家督相  
續人ノ債權者ト為リタル者ハ其取消

ニ因リテ戸主タル者ニ對シテ辨濟ノ  
請求ヲ為スコトヲ得但家督相續人ニ  
對スル請求ヲ妨ケス

債權者カ債權取得ノ當時隱居取消ノ  
原因ノ存スルコトヲ知リタルトキハ  
家督相續人ニ對シテノニ辨濟ノ請求  
ヲ為スコトヲ得家督相續人カ家督相  
續前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ  
專屬スル債務ニ付キ亦同シ

第七百六十一條 隱居又ハ入夫婚姻ニ

因ル戸主權ノ喪失ハ前戸主又ハ家督  
相續人ヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務  
者ニ其通知ヲ為スニ非サレハ之ヲ以  
テ其債權者及ヒ債務者ニ對抗スルユ  
トヲ得ス

第七百六十二條 新ニ家ヲ立テタル者  
ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルユトヲ得  
家督相續ニ因リテ戸主ト為リタル者  
ハ其家ヲ廢スルユトヲ得ス但本家ノ  
相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ

裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ  
在ラス

第七百六十三條 戸主カ適法ニ廢家シ  
テ他家ニ入リタルトキハ其家族モ亦  
其家ニ入ル

第七百六十四條 戸主ヲ失ヒタル家ニ  
家督相續人ナキトキハ絶家ニタルモ  
ノトシ其家族ハ各一家ヲ創立ス但子  
ハ父ニ隨ヒ又父カ知レサルトキ他家  
ニ在ルトキ若クハ死亡ニタルトキハ

母ニ隨ヒテ其家ニ入ル  
前項ノ規定ハ第七百四十五條ノ適用  
ヲ妨ケス

### 第三章 婚姻

#### 第一節 婚姻ノ成立

##### 第一款 婚姻ノ要件

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿  
十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ為スコト  
ヲ得ス

第七百六十六條 配偶者アル者ハ重ネ

テ婚姻ヲ為スコトヲ得ス

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ

取消ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後

ニ非サレハ再婚ヲ為スコトヲ得ス

女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷

胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨ

リ前項ノ規定ヲ適用セス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又

ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト

婚姻ヲ為スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等  
内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ為  
スコトヲ得ス但養子ト養方ノ傍系血  
族トノ間ハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系姻族ノ間ニ於テハ  
婚姻ヲ為スコトヲ得ス第七百二十九  
條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル  
後亦同シ

第七百七十一條 養子其配偶者直系卑  
屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊

屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規  
定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖  
モ婚姻ヲ為スコトヲ得ス

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ為スニハ  
其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ  
要ス但男カ滿三十年女カ滿二十五年  
ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス  
父母ノ一方カ知シサルトキ死亡シタルトキ家  
ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト  
能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミ

ヲ以テ足ル  
父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルト  
キ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表  
示スルコト能ハサルトキハ未成年者  
ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ル  
コトヲ要ス

第七百七十三條 継父母又ハ嫡母カ子  
ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族  
會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ為スコトヲ得  
第七百七十四條 禁治産者カ婚姻ヲ為

スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ  
要セス

第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ  
届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス  
前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ  
證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名  
シタル書面ヲ以テ之ヲ為スコトヲ要  
ス

第七百七十六條 戸籍吏ハ婚姻カ第七  
百四十一條第一項第七百四十四條第

一項第七百五十條第一項第七百五十  
四條第一項第七百六十五條乃至第七  
百七十三條及ヒ前條第二項ノ規定其  
他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタ  
ル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコ  
トヲ得ス但婚姻カ第七百四十一條第  
一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定  
ニ違反スル場合ニ於テ戸籍吏カ注意  
ヲ為シタルニ拘ハラス當事者カ其届  
出ヲ為サント欲スルトキハ此限ニ在

ラス

第七百七十七條 外國ニ在ル日本人間  
ニ於テ婚姻ヲ為サント欲スルトキハ  
其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事  
ニ其届出ヲ為スコトヲ得此場合ニ於  
テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款

婚姻ノ無効及ヒ取消

第七百七十八條

婚姻ハ左ノ場合ニ限

リ無効トス

一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者



間ニ婚姻ヲ為ス意思ナキトキ  
二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ為ササ  
ルトキ但其届出カ第七百七十  
五條第二項ニ掲ケタル條件ヲ  
缺クニ止マルトキハ婚姻ハ之  
カ為メニ其效力ヲ妨ケラルル  
コトナシ

第七百七十九條 婚姻ハ後七條ノ規定  
ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ  
得ス

第七百八十條 第七百六十五條乃至第  
七百七十一條ノ規定ニ違反シタル婚  
姻ハ各當事者其戸主親族又ハ檢事ヨ  
リ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ  
得但檢事ハ當事者ノ一方カ死亡シタ  
ル後ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス  
第七百六十六條乃至第七百六十八條  
ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當  
事者ノ配偶者又ハ前配偶者モ亦其取  
消ヲ請求スルコトヲ得

第七百八十一條 第七百六十五條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ不適齡者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

不適齡者ハ適齡ニ達シタル後尚ホ三個月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但適齡ニ達シタル後追認ヲ為シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百八十二條 第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若

クハ取消ノ日ヨリ六個月ヲ經過シ又ハ女カ再婚後懐胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十三條 第七百七十二條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ同意ヲ為ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條 前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 一 同意ヲ為ス權利ヲ有セシ者カ  
婚姻アリタルコトヲ知リタル  
後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強  
迫ヲ免レタル後六個月ヲ經過  
シタルトキ
- 二 同意ヲ為ス權利ヲ有セシ者カ  
追認ヲ為シタルトキ
- 三 婚姻届出ノ日ヨリ二年ヲ經過  
シタルトキ

第七百八十五條 詐欺又ハ強迫ニ因リ

テ婚姻ヲ為シタル者ハ其婚姻ノ取消  
ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得  
前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見  
シ若クハ強迫ヲ免レタル後三個月ヲ  
經過シ又ハ追認ヲ為シタルトキハ消  
滅ス

第七百八十六條 婿養子縁組ノ場合ニ  
於テハ各當事者ハ縁組ノ無効又ハ取  
消ヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ裁判所  
ニ請求スルコトヲ得但縁組ノ無効又

ハ取消ノ請求ニ附帯シテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ縁組ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後三ヶ月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第七百八十七條 婚姻ノ取消ハ其效力ヲ既往ニ及ホサス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラサリシ當事者カ婚姻ニ因リ

テ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ為スコトヲ要ス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ婚姻ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返還スルコトヲ要ス尚ホ相手方カ善意ナリシトキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第二節 婚姻ノ效力

第七百八十八條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫

ノ家ニ入ル

入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル

第七百八十九條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

夫ハ妻ヲシテ同居ヲ為サシムルコトヲ要ス

第七百九十條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ為ス

義務ヲ負フ

第七百九十一條 妻カ未成年者ナルト

キハ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ行

フ

第七百九十二條 夫婦間ニ於テ契約ヲ

為シタルトキハ其契約ハ婚姻中何時

ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ取消スコ

トヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコト

ヲ得ス

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

第七百九十三條 夫婦カ婚姻ノ届出前

ニ其財産ニ付キ別段ノ契約ヲ為ササ

メ

メ

メ

メ

メ

リシトキハ其財産關係ハ次款ニ定ムル所ニ依ル

第七百九十四條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ為シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ為スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承継人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十五條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ為シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日本ノ國籍

ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキハ一年内ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於テハ之ヲ以テ夫婦ノ承継人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十六條 夫婦ノ財産關係ハ婚姻届出ノ後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ管理ノ失當ニ因リ其

財産ヲ危クシタルトキハ他ノ一方ハ  
自ラ其管理ヲ為サシムコトヲ裁判所ニ  
請求スルコトヲ得

共有財産ニ付テハ前項ノ請求ト共ニ  
其分割ヲ請求スルコトヲ得

第七百九十七條 前條ノ規定又ハ契約  
ノ結果ニ依リ管理者ヲ變更シ又ハ共  
有財産ノ分割ヲ為シタルトキハ其登  
記ヲ為スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ  
承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ

得ス

第二款 法定財産制

第七百九十八條 夫ハ婚姻ヨリ生スル

一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戸主タル  
トキハ妻之ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ第七百九十條及ヒ第八  
章ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第七百九十九條 夫又ハ女戸主ハ用方  
ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收  
益ヲ為ス權利ヲ有ス

夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ財産ノ果  
實中ヨリ其債務ノ利息ヲ拂フコトヲ  
要ス

第百八條 第五百九十五條及ヒ第百  
九十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ  
準用ス

第百一十一條 夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス  
夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサ  
ルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス

第百一十二條 夫カ妻ノ為メニ借財ヲ為

シ妻ノ財産ヲ讓渡シ之ヲ擔保ニ供シ  
又ハ第百一十二條ノ期間ヲ超エテ其債  
貸ヲ為スニハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ  
要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分  
スルハ此限ニ在ラス

第百一十三條 夫カ妻ノ財産ヲ管理スル  
場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ  
裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其  
財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔  
保ヲ供セシムルコトヲ得



第八百四條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ

夫ノ代理人ト看做ス

夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ

否認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ

第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八百五條 夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又

ハ妻カ夫ノ代理ヲ為ス場合ニ於テハ

自己ノ為メニスルト同一ノ注意ヲ為

スユトヲ要ス

第八百六條 第六百五十四條及ヒ第六

百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財産ヲ

管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ為ス場合

ニ之ヲ準用ス

第八百七條 妻又ハ入夫カ婚姻前ヨリ

有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於

テ得タル財産ハ其特有財産トス

夫婦ノ孰レニ属スルカ分明ナラサル

財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

第八百八條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚  
ヲ為スコトヲ得

第八百九條 滿二十五年ニ違セサル者  
カ協議上ノ離婚ヲ為スニハ第七百七  
十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ  
依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ為ス權利ヲ  
有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
第八百十條 第七百七十四條及ヒ第七  
百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ  
之ヲ準用ス

第八百十一條 戶籍吏ハ離婚カ第七百  
七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ規  
定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認  
メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理ス  
ルコトヲ得ス

戶籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出  
ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ  
為メニ其效力ヲ妨ケラルコトナシ  
第八百十二條 協議上ノ離婚ヲ為シタ  
ル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ為ス

ヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ  
父ニ属ス  
父カ離婚ニ因リテ婚家ヲ去リタル場  
合ニ於テハ子ノ監護ハ母ニ属ス  
前二項ノ規定ハ監護ノ範圍外ニ於テ  
父母ノ權利義務ニ變更ヲ生スルコト  
ナシ

第二款 裁判上ノ離婚

第八百十三條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合  
ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 配偶者カ重婚ヲ為シタルトキ
- 二 妻カ姦通ヲ為シタルトキ
- 三 夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セ  
ラレタルトキ
- 四 配偶者カ偽造、賄賂、猥褻、竊盜、強  
盜、詐欺、取財、受寄、財物費消、贓物ニ  
關スル罪若クハ刑法第百七十  
五條第百六十條ニ掲ケタル  
罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處  
セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ

重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

六 配偶者ヨリ悪意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ為シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離縁アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ為シタル場合ニ於テ離縁若クハ縁組ノ取消アリタルトキ

第八百十四條 前條第一號乃至第四號  
ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方  
ノ行為ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴  
ヲ提起スルコトヲ得ス  
前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ  
夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊  
属ノ行為ヲ宥恕シタルトキ亦同シ  
第八百十五條 第八百十三條第四號ニ  
掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ  
其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理

由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ  
得ス

第八百十六條 第八百十三條第一號乃  
至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之  
ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ  
原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年  
ヲ経過シタル後ハ之ヲ提起スルコト  
ヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ経  
過シタル後亦同シ  
第八百十七條 第八百十三條第九號ノ

事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死  
カ分明ト為リタル後ハ之ヲ提起スル  
コトヲ得ス

第八百十八條 第八百十三條第十號ノ  
場合ニ於テ離縁又ハ縁組取消ノ請求  
アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ  
請求ヲ為スコトヲ得

第八百十三條第十號ノ事由ニ因ル離  
婚ノ訴ハ當事者カ離縁又ハ縁組ノ取  
消アリタルコトヲ知リタル後三個月

ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄  
シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得  
ス

第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ  
裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所  
ハ子ノ利益ノ為メ其監護ニ付キ之ニ  
異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章 親子

第一節 實子

第一款 嫡出子

第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懐胎シタ

ル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ

解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ

生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモ

ノト推定ス

第八百二十一條 第七百六十七條第一

項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ為シタル

女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規

定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハ

サルトキハ裁判所之ヲ定ム

第八百二十二條 第八百二十條ノ場合

ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認

スルコトヲ得

第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又

ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ

之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナル

トキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任ス

ルコトヲ要ス

第八百二十四條 夫カ子ノ出生後ニ於

テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキ  
ハ其否認權ヲ失フ

第百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ  
出生ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ之ヲ  
提起スルコトヲ要ス

第百二十六條 夫カ未成年者ナルト  
キハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタル  
時ヨリ之ヲ起算ス但夫カ成年ニ達シ  
タル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ  
此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間  
ハ禁治産ノ取消アリタル後夫カ子ノ  
出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二款 庶子及ヒ私生子

第百二十七條 私生子ハ其父又ハ母  
ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子ト  
ス

第百二十八條 私生子ノ認知ヲ為ス  
ニハ父又ハ母カ無能力者ナルトキト



雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコト  
ヲ要セス

第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戶籍  
吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ為ス  
認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ為スコ  
トヲ得

第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾  
アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ  
得ス

第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト

雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ  
於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス  
父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直  
系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スル  
コトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ  
成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコト  
ヲ要ス

第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ溯  
リテ其效力ヲ生ス但第三者カ既ニ取  
得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百三十三條 認知ヲ為シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ス

第八百三十四條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十五條 子其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得

第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ為スコトヲ得

第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之

ヲ養子ト為スコトヲ得ス

第八百三十九條 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト為スコトヲ得ス但女壻ト為ス為メニスル場合ハ此限ニ在ラス

第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト為スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合

ニハ之ヲ適用セス

第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ為スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト為スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第八百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ雙方

ノ名義ヲ以テ縁組ヲ為スユトヲ得  
第八百四十三條 養子ト為ルヘキ者カ  
十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父  
母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ為スユ  
トヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ為ス  
ニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
第八百四十四條 成年ノ子カ養子ヲ為  
シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト為  
ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ル

コトヲ要ス

第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リ  
テ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシ  
テ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家  
ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限  
ニ在ラス

第八百四十六條 第七百七十二條第二  
項及ヒ第三項ノ規定ハ前三條ノ場合  
ニ之ヲ準用ス

第七百七十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百四十七條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス

第八百四十八條 養子ヲ為サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者養子ト為ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ

為シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ届出ヲ為スコトヲ要ス  
前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第八百四十九條 戸籍吏ハ縁組カ第七百四十一條第一項第七百四十四條第一項第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ

受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十條 外國ニ在ル日本人間ニ  
於テ縁組ヲ為サント欲スルトキハ其  
國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ  
其届出ヲ為スコトヲ得此場合ニ於テ  
ハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定  
ヲ準用ス

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限  
リ無効トス

- 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者  
間ニ縁組ヲ為ス意思ナキトキ
- 二 當事者カ縁組ノ届出ヲ為ササ  
ルトキ但其届出カ第七百七十  
五條第二項及ヒ第八百四十八  
條第一項ニ掲ケタル條件ヲ缺  
クニ止マルトキハ縁組ハ之カ  
為メニ其效力ヲ妨ケラルコト

第八百五十二條 縁組ハ後七條ノ規定

ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第八百五十三條 第八百三十七條ノ規

定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六個月ヲ経過シ又ハ追認ヲ為シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百五十四條 第八百三十八條又ハ

第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八百五十五條 第八百四十條ノ規定

ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終リタル後養子カ追認ヲ為シ又ハ六個月ヲ経過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ  
回復シタル後之ヲ為スニ非サレハ其  
效ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復  
セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル  
場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ハ養  
子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタ  
ル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百五十六條 第八百四十一條ノ規  
定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ為ササ

リシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請  
求スルコトヲ得但其配偶者カ縁組ア  
リタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經  
過シタトキハ追認ヲ為シタルモノト  
者做ス

第八百五十七條 第八百四十四條乃至  
第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル  
縁組ハ同意ヲ為ス權利ヲ有セシ者ヨ  
リ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ  
得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルト



キ亦同シ

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十八條 婿養子縁組ノ場合ニ

於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効

ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六個月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第八百五十九條 第七百八十五條及ヒ

第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六個月トス

第三款 縁組ノ效力

第八百六十條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス

第八百六十一條 養子ハ縁組ニ因リテ  
養親ノ家ニ入ル

第四款 離縁

第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協  
議ヲ以テ離縁ヲ為スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁  
ハ養親ト養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾  
ヲ為ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以  
テ之ヲ為ス

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ為

サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得  
テ之ヲ為スコトヲ得

第八百六十三條 滿二十五年ニ達セサ  
ル者カ協議上ノ離縁ヲ為スニハ第八  
百四十四條ノ規定ニ依リ其縁組ニ付  
キ同意ヲ為ス權利ヲ有スル者ノ同意  
ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條第二項第三項及ヒ第  
七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ  
之ヲ準用ス

第八百六十四條 第七百七十四條及ヒ  
第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離  
縁ニ之ヲ準用ス

第八百六十五條 戸籍吏ハ離縁カ第七  
百七十五條第二項第八百六十二條及  
ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令  
ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非  
サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス  
戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出  
ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之カ

為メニ其效力ヲ妨ケララルコトナシ  
第八百六十六條 縁組ノ當事者ノ一方  
ハ左ノ場合ニ限り離縁ノ訴ヲ提起ス  
ルコトヲ得

- 一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 二 他ノ一方ヨリ悪意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 三 養親ノ直系尊属ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ

刑ニ處セラレタルトキ

五 養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ

傾クヘキ重大ナル過失アリタ

ルトキ

六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸

セサルトキ

七 養子ノ生死カ三年以上分明ナ

ラサルトキ

八 他ノ一方カ自己ノ直系尊属ニ

對シテ虐待ヲ為シ又ハ之ニ重

大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚

アリタルトキ又ハ養子カ家女

ト婚姻ヲ為シタル場合ニ於テ

離婚若クハ婚姻ノ取消アリタ

ルトキ

第八百六十七條 養子カ滿十五年ニ達

セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有

スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコト

ヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十八條 第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行為ヲ宥恕シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十九條 第八百六十六條第四號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ

一方ノ行為ニ同意シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十六條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラレタル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知リタ

ル時ヨリ一年ヲ経過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ経過シタル後亦同シ

第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ経過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ経過シタル後亦同シ

第八百七十二條 第八百六十六條第七

號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト為リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十三條 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ為スコトヲ得

第八百六十六條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六介

月ヲ經過シ又ハ離縁請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十四條 養子カ戸主ト為リタル後ハ離縁ヲ為スコトヲ得ス但隱居ヲ為シタル後ハ此限ニ在ラス

第八百七十五條 養子ハ離縁ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百七十六條 夫婦カ養子ト為リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ為シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ為スコトヲ要ス

### 第五章 親權

#### 第一節 總則

第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ  
第八百七十八條 繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章ノ規定ヲ準用ス

第二節 親權ノ效力

第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ為ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第八百八十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス

第八百八十一條 未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ



懲戒場ニ入ルルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六個月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得

第八百八十三條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制

限スルコトヲ得

第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行為ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行為ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十五條 未成年ノ子カ其配偶者ノ財産ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母之ニ代ハリテ其

財産ヲ管理ス

第八百八十六條 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ掲ケタル行為ヲ為シ又ハ子ノ之ヲ為スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

- 一 營業ヲ為スコト
- 二 借財又ハ保證ヲ為スコト
- 三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル

行為ヲ為スコト

- 四 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ為スコト

- 五 相續ヲ拋棄スルコト

- 六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絶スルコト

第八百八十七條 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ為シ又ハ同意ヲ與ヘタル行為ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於

テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス  
前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百  
二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第百八十八條 親權ヲ行フ父又ハ母  
ト其未成年ノ子ト利益相反スル行為  
ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ為メニ特  
別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ  
請求スルコトヲ要ス  
父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ  
行フ場合ニ於テ其一人ト他ノ子トノ

利益相反スル行為ニ付テハ其一方ノ  
為メ前項ノ規定ヲ準用ス

第百八十九條 親權ヲ行フ父又ハ母  
ハ自己ノ為メニスルト同一ノ注意ヲ  
以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス  
母ハ親族會ノ同意ヲ得テ為シタル行  
為ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス  
但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在  
ラス

第百九十條 子カ成年ニ達シタルト

キハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滯  
ナク其管理ノ計算ヲ為スコトヲ要ス  
但其子ノ養育及ヒ財産ノ管理ノ費用  
ハ其子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シタ  
ルモノト者做ス

第八百九十一條 前條但書ノ規定ハ無  
償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ反  
對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財産  
ニ付テハ之ヲ適用セス

第八百九十二條 無償ニテ子ニ財産ヲ

與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母  
ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表  
示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母ノ  
管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ  
指定セサリシトキハ裁判所ハ子其親  
族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ  
選任ス

第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖  
モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ

改任スル必要アル場合ニ於テ第三者  
カ更ニ管理者ヲ指定セサルトキ亦同  
シ

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ  
前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十三條 第六百五十四條及ヒ  
第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ  
子ノ財産ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十四條 親權ヲ行ヒタル父若

クハ母又ハ親族會員ト其子トノ間ニ  
財産ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其  
管理權消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハ  
サルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

子カ未タ成年ニ達セサル間ニ管理權  
カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其  
子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理  
人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百九十五條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ  
其未成年ノ子ニ代ハリテ戸主權及ヒ

親權ヲ行フ

第三節 親權ノ喪失

第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪

失ヲ宣告スルコトヲ得

父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百九十八條 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スルコトヲ得

第八百九十九條 親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得

第六章 後見

第一節 後見ノ開始

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始

ス

一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ

者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者

カ管理權ヲ有セサルトキ

二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

第二節 後見ノ機關

第一款 後見人

第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ

親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ

指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサ

ル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ

財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前

項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ為

スコトヲ得

第九百二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁

治産者ノ後見人ト為ル

妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ

夫其後見人ト為ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル

夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト為ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ

第一項ノ規定ニ依ル

第九百三條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戸主其後見人ト為ル

第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後

見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス

第九百五條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ後見人カ其任務ヲ辭シ親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戸主カ隱居ヲ為シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父母又ハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ召集シ又ハ其召集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス



第九百六條 後見人ハ一人タルコトヲ

要ス

第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

- 一 軍人トシテ現役ニ服スルコト
- 二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ従事スルコト
- 三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケ

タル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト

四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ為シタルコト但配偶者直系血族及ヒ戸主ハ此限ニ在ラ

ス

五 此他正當ノ事由

第九百八條 左ニ掲ケタル者ハ後見人

タルコトヲ得ス

- 一 未成年者

- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人
- 五 破産者
- 六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ為シ又ハ為シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 七 行方ノ知レサル者
- 八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪

第九百九條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

ハサル事跡不正ノ行為又ハ著シキ不行跡アリト認めタル者

保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治産者トノ利益相反スル行為ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第二款 後見監督人

第九百十條 後見人ヲ指定スルコトヲ

得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指  
定スルコトヲ得

第九百十一條 前條ノ規定ニ依リテ指  
定シタル後見監督人ナキトキハ法定  
後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著  
手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請  
求シ後見監督人ヲ選任セシムルコト  
ヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親  
族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得  
親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルト

キハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコ  
トヲ要ス

第九百十二條 後見人就職ノ後後見監  
督人ノ缺ケタルトキハ後見人ハ遲滯  
ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選  
任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テ  
ハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス  
第九百十三條 後見人ノ更迭アリタル  
トキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選ス  
ルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ再選

スルユトヲ妨ケス

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滞ナク親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ為サシムルユトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行為ニ付キ之ト連帶シテ其責ニ任ス

第九百十四條 後見人ノ配偶者直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ

如シ

- 一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
- 二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滞ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ為サシムルコト
- 三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ為スコト

四

後見人又ハ其代表スル者ト被  
後見人トノ利益相反スル行為  
ニ付キ被後見人ヲ代表スルコ  
ト

第九百十六條

第六百四十四條第九百

七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後見監  
督人ニ之ヲ準用ス

第三節

後見ノ事務

第九百十七條

後見人ハ遲滞ナク被後

見人ノ財産ノ調査ニ著手シ一个月内

ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製ス  
ルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於  
テ之ヲ伸長スルコトヲ得

財産ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見  
監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ為スニ非サ  
レハ其效ナシ

後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財産ノ  
目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之  
ヲ免黜スルコトヲ得

第九百十八條

後見人ハ目錄ノ調製ヲ

終ハルマテハ急迫ノ必要アル行為ノ  
ミヲ為ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意  
ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九百十九條 後見人カ被後見人ニ對  
シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ  
財産ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見  
監督人ニ申出ツルコトヲ要ス  
後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有ス  
ルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキ  
ハ其債權ヲ失フ

後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フ  
コトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ  
親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ  
得

第九百二十條 前三條ノ規定ハ後見人  
就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ取得  
シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九百二十一條 未成年者ノ後見人ハ  
第八百七十九條乃至第八百八十三條  
及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項

ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ  
權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ  
母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ  
變更シ未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業  
ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制  
限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコト  
ヲ要ス

第九百二十二條 禁治產者ノ後見人ハ  
禁治產者ノ資力ニ應シテ其療養者護  
ヲカムルコトヲ要ス

禁治產者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅  
ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ  
得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ  
財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律  
行為ニ付キ被後見人ヲ代表ス

第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第九百二十四條 後見人ハ其就職ノ初  
ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人

ノ生活教育又ハ療養者護及ヒ財産ノ  
管理ノ為メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定  
スルコトヲ要ス  
前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ル  
ニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス  
但已ムコトヲ得サル場合ニ於テ豫定  
額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨  
ケス

第九百二十五條 親族會ハ後見人及ヒ  
被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被

後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後  
見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被  
後見人ノ配偶者直系血族又ハ戸主ナ  
ルトキハ此限ニ在ラス

第九百二十六條 後見人ハ親族會ノ同  
意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用ス  
ルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ妨ケ  
ス

第九百二十七條 親族會ハ後見人就職  
ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ為メ



ニ受取リタル金銭カ何程ノ額ニ達セ  
ハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ  
要ス

後見人カ被後見人ノ為メニ受取リタ  
ル金銭カ親族會ノ定メタル額ニ達ス  
ルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサル  
トキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス  
金銭ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同  
意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十八條 指定後見人及ヒ選定

後見人ハ毎年少クトモ一回被後見人  
ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコ  
トヲ要ス

第九百二十九條 後見人カ被後見人ニ  
代ハリテ營業若クハ第十二條第一項  
ニ掲ケタル行為ヲ為シ又ハ未成年者  
ノ之ヲ為スコトニ同意スルニハ親族  
會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ  
領收ニ付テハ此限ニ在ラス

第九百三十條 後見人カ被後見人ノ財

産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權  
利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之  
ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第  
十九條ノ規定ヲ準用ス  
前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百  
二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同  
意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財産  
ヲ賃借スルコトヲ得ス

第九百三十二條 後見人カ其任務ヲ曠

クスルト  
選任シ終  
ノ財産ヲ  
會ハ臨時管理人ヲ  
任ヲ以テ被後見人  
ムルコトヲ得

第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシ  
テ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ  
付キ相當ノ擔  
得

第九百三十四條 被後見人カ戸主ナル  
トキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利  
ヲ行フ但家族ヲ離籍シ其復籍ヲ拒ミ

産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權  
利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之  
ヲ取消スルヲ得此場合ニ於テハ第  
十九條ノ規定ヲ準用ス  
前項ノ規定ニ第百二十一條乃至第百  
二十六條ノ規定ヲ妨ケス

第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同  
意ヲ得ルニ被後見人ノ財産  
ヲ賃借スルヲ得ス  
見人カ其任務ヲ曠



クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ  
選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人  
ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得

第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシ  
テ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ  
付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ  
得

第九百三十四條 被後見人カ戸主ナル  
トキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利  
ヲ行フ但家族ヲ離籍シ其復籍ヲ拒ミ

又ハ家族カ分家ヲ為シ若クハ廢絶家  
ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族  
會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ  
行フ但第九百十七條乃至第九百二十  
一條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス

第九百三十五條 親權ヲ行フ者カ管理  
權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ  
財産ニ關スル權限ノミヲ有ス

第九百三十六條 第六百四十四條第八

百八十七條第八百八十九條第二項及  
ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之  
ヲ準用ス

第四節 後見ノ終了

第九百三十七條 後見人ノ任務カ終了  
シタルトキハ後見人又ハ其相續人ハ  
二个月内ニ其管理ノ計算ヲ為スコト  
ヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ  
伸長スルコトヲ得

第九百三十八條 後見ノ計算ハ後見監

督人ノ立會ヲ以テ之ヲ為ス

後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ  
後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコ  
トヲ要ス

第九百三十九條 未成年者カ成年ニ達

シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者  
ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ為シ  
タル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコ  
トヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ  
對シテ為シタル單獨行為亦同シ

第十九條及ヒ第二百一十一條乃至第百  
二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ  
準用ス

第九百四十條 後見人カ被後見人ニ返

還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人  
ニ返還スヘキ金額ニハ後見ノ計算終  
了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス  
後見人カ自己ノ為メニ被後見人ノ金  
錢ヲ消費シタルトキハ其消費ノ時ヨ  
リ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尚ホ

損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任  
ス

第九百四十一條 第六百五十四條及ヒ

第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ

準用ス

第九百四十二條 第八百九十四條ニ定

メタル時效ハ後見人後見監督人又ハ

親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後

見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用

ス

前項ノ時效ハ第九百三十九條ノ規定

ニ依リテ法律行為ヲ取消シタル場合

ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第九百四十三條 前條第一項ノ規定ハ

保佐人又ハ親族會員ト準禁治産者ト

ノ間ニ之ヲ準用ス

第七章 親族會

第九百四十四條 本法其他ノ法令ノ規

定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於

テハ會議ヲ要スル事件ノ本人戸主親

族後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ  
利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ  
招集ス

第九百四十五條 親族會員ハ三人以上

トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス  
後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得

第九百四十六條 遠隔ノ地ニ居住スル

者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得  
後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス

第九百八條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

第九百四十七條 親族會ノ議事ハ會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第九百四十八條 本人、戸主、家ニ在ル父  
母、配偶者、本家、竝ニ分家ノ戸主、後見人、  
後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於  
テ其意見ヲ述フルコトヲ得  
親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ  
之ヲ通知スルコトヲ要ス

第九百四十九條 無能力者ノ為メニ設  
ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ム  
マテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ  
場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見

監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招集ス

第九百五十條 親族會ニ缺員ヲ生シタ  
ルトキハ會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判  
所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百五十一條 親族會ノ決議ニ對シ  
テハ一个月内ニ會員又ハ第九百四十  
四條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判  
所ニ訴フルコトヲ得

第九百五十二條 親族會カ決議ヲ為ス  
コト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ



代ハルヘキ裁判ヲ為スコトヲ裁判所  
ニ請求スルコトヲ得

第九百五十三條 第六百四十四條ノ規  
定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

第八章 扶養ノ義務

第九百五十四條 直系血族及ヒ兄弟姉  
妹ハ互ニ扶養ヲ為ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニ  
シテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

第九百五十五條 扶養ノ義務ヲ負フ者

數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行  
スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

第四 戸主

第五 前條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ  
其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第

二項ニ掲ケタル直系尊属間亦同シ

第九百五十六條 同順位ノ扶養義務者

數人アルトキハ各其資力ニ應シテ其

義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在

ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者

先ツ扶養ヲ為スコトヲ要ス

第九百五十七條 扶養ヲ受クル權利ヲ

有スル者數人アル場合ニ於テ扶養義

務者ノ資力カ其全員ヲ扶養スルニ足

ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序

ニ從ヒ扶養ヲ為スコトヲ要ス

第一 直系尊属

第二 直系卑属

第三 配偶者

第九百五十四條第二項ニ掲

ケタル者

第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サ

ル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項

、場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十八條 同順位ノ扶養權利者  
数人アルトキハ各其需要ニ應ジテ扶  
養ヲ受クルコトヲ得

第九百五十六條 但書ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十九條 扶養ノ義務ハ扶養ヲ  
受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ  
依リテ生活ヲ為スコト能ハサルトキ  
ニ、ミ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教

育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ  
兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ  
扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者  
ノ過失ニ因ラスシテ生シタルトキニ  
、ミ存在ス但扶養義務者カ戸主ナル  
トキハ此限ニ在ラス

第九百六十條 扶養ノ程度ハ扶養權利  
者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資  
カトニ依リテ之ヲ定ム

第九百六十一條 扶養義務者ハ其選擇

ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養  
ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料  
ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由  
アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請  
求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ  
得

第九百六十二條 扶養ノ程度又ハ方法  
カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於  
テ其判決ノ根據ト為リタル事情ニ變  
更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決

ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得  
第九百六十三條 扶養ヲ受クル權利ハ  
之ヲ處分スルコトヲ得ス

第五編 相續

第一章 家督相續

第一節 總則

第九百六十四條 家督相續ハ左ノ事由  
ニ因リテ開始ス  
一 戸主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失  
二 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取

消ニ因リテ其家ヲ去リタルト  
キ

三 女戸主ノ入夫婚姻又ハ入夫ノ

離婚

第九百六十五條 家督相續ハ被相續人  
ノ住所ニ於テ開始ス

第九百六十六條 家督相續回復ノ請求  
權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ  
相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ  
五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因

リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年  
ヲ經過シタルトキ亦同シ

第九百六十七條 相續財産ニ關スル費  
用ハ其財産中ヨリ之ヲ支辨ス但家督  
相續人ノ過失ニ因ルモノハ此限ニ在  
ラス

前項ニ掲ケタル費用ハ遺留分權利者  
カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財産ヲ  
以テ之ヲ支辨スルコトヲ要セス

## 第二節 家督相續人

第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ付

テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレ

タルトキハ之ヲ適用セス

第九百六十九條 左ニ掲ケタル者ハ家

督相續人タルコトヲ得ス

一 故意ニ被相續人又ハ家督相續

ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ

致シ又ハ死ニ致サントシタル

為メ刑ニ處セラレタル者

二 被相續人ノ殺害セラレタルコ

トヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴

セサリシ者但其者ニ是非ノ辨

別ナキトキ又ハ殺害者カ自己

ノ配偶者若クハ直系血族ナリ

シトキハ此限ニ在ラス

三 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人

カ相續ニ關スル遺言ヲ為シ之

ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコ

トヲ妨ケタル者

四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人  
ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ為  
サシメ、之ヲ取消サシメ又ハ之  
ヲ變更セシメタル者

五 相續ニ關スル被相續人ノ遺言  
書ヲ偽造變造毀滅又ハ藏匿シ  
タル者

第九百七十條 被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相續人ト為ル

- 一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
- 二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
- 三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス
- 四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス

五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ  
相同シキ者ノ間ニ在リテハ年  
長者ヲ先ニス

第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養  
子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取  
得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡  
出子タル身分ヲ取得シタル時ニ出マ  
レタルモノト看做ス

第九百七十一條 前條ノ規定ハ第七百  
三十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百七十二條 第七百三十七條及ヒ  
第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族  
ト為リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶  
子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限り  
第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒ  
テ家督相續人ト為ル

第九百七十三條 法定ノ推定家督相續  
人ハ其姉妹ノ為メニスル養子縁組ニ  
因リテ其相續權ヲ害セララルコトナ  
シ



第九百七十四條 第九百七十條及ヒ第  
九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相  
續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前  
ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場  
合ニ於テ其者ニ直系卑属アルトキハ  
其直系卑属ハ第九百七十條及ヒ第九  
百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其  
者ト同順位ニ於テ家督相續人ト為ル  
第九百七十五條 法定ノ推定家督相續  
人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續

人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判  
所ニ請求スルコトヲ得

一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ為シ  
又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘ  
タルコト

二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況  
ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサル  
ヘキコト

三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ  
因リテ刑ニ處セラレタルコト

四 浪費者トシテ準禁治産ノ宣告

ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

第九百七十六條 被相續人ハ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意志ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ為スコトヲ要ス此

場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百七十七條 推定家督相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百七十五條 第一項第一號ノ場合ニ於テハ被相續人ハ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得  
前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ

適用セス

前條ノ規定ハ廢除ノ取消ニ之ヲ準用ス

第九百七十八條 推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ開始シタルトキハ裁判所ハ親族利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ戸主權ノ行使及ヒ遺産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得廢除ノ遺言アリタルトキ亦同

シ

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第九百七十九條 法定ノ推定家督相續人ナキトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得此指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ其效力ヲ失フ  
家督相續人ノ指定ハ之ヲ取消スコト

ヲ得

前二項ノ規定ハ死亡又ハ隱居ニ因ル  
家督相續ノ場合ニノミ之ヲ適用ス

第九百八十條 家督相續人ノ指定及ヒ  
其取消ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因  
リテ其效力ヲ生ス

第九百八十一條 被相續人カ遺言ヲ以  
テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ為  
ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行  
者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯

ナク之ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要  
ス此場合ニ於テ指定又ハ其取消ハ被  
相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ  
生ス

第九百八十二條 法定又ハ指定ノ家督  
相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相續  
人ノ父アルトキハ父父アラサルトキ  
又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハ  
サルトキハ母父母共ニアラサルトキ  
又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサル

トキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族  
中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一 配偶者但家女ナルトキ

第二 兄弟

第三 姉妹

第四 第一號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

第九百八十三條 家督相續人ヲ選定ス

ヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限り

裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ掲ケタル

順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ為ササルコ  
トヲ得

第九百八十四條 第九百八十二條ノ規

定ニ依リテ家督相續人タル者ナキト

キハ家ニ在ル直系尊屬中親等ノ最モ

近キ者家督相續人ト為ル但親等ノ同

シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

第九百八十五條 前條ノ規定ニ依リテ

家督相續人タル者ナキトキハ親族會

ハ被相續人ノ親族家族分家ノ戸主又

ハ本家若クハ分家ノ家族中ヨリ家督  
相續人ヲ選定ス  
前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相續人  
タルヘキ者ナキトキハ親族會ハ他人  
ノ中ヨリ之ヲ選定ス  
親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限り  
前二項ノ規定ニ拘ハラヌ裁判所ノ許  
可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

第三節 家督相續ノ效力

第九百八十六條 家督相續人ハ相續開

始ノ時ヨリ前戸主ノ有セシ權利義務  
ヲ承継ス但前戸主ノ一身ニ專屬セル  
モノハ此限ニ在ラス

第九百八十七條 系譜祭具及ヒ墳墓ノ

所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十八條 隱居者及ヒ入夫婚姻  
ヲ為ス女戸主ハ確定日附アル證書ニ  
依リテ其財産ヲ留保スルコトヲ得但  
家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ  
違反スルコトヲ得ス

第九百八十九條 隱居又ハ入夫婚姻ニ  
因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戸主  
ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテ辨濟ノ  
請求ヲ為スコトヲ得  
入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因  
ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戸  
主タリニ間ニ負擔シタル債務ノ辨濟  
ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコト  
ヲ得  
前二項ノ規定ハ家督相續人ニ對スル

請求ヲ妨ケス  
第九百九十條 國籍喪失者ノ家督相續  
人ハ戸主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬  
スル權利ノミヲ承継ス但遺留分及ヒ  
前戸主カ特ニ指定シタル相續財産ヲ  
承継スルコトヲ妨ケス  
國籍喪失者カ日本人ニ非サレハ享有  
スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合  
ニ於テ一年内ニ之ヲ日本人ニ讓渡サ  
サルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸

属ス

第九百九十一條 國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテハ其受ケタル財産ノ限度ニ於テノニ辨濟ノ請求ヲ為スコトヲ得

第二章 遺産相續

第一節 總則

第九百九十二條 遺産相續ハ家族ノ死亡ニ因リテ開始ス

第九百九十三條 第九百六十五條乃至第九百六十八條ノ規定ハ遺産相續ニ之ヲ準用ス

第二節 遺産相續人

第九百九十四條 被相續人ノ直系卑属ハ左ノ規定ニ從ヒ遺産相續人ト為ル

- 一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
- 二 親等ノ同シキ者ハ同順位ニ於テ遺産相續人ト為ル



第九百九十五條 前條ノ規定ニ依リテ  
遺産相續人タルヘキ者カ相續ノ開始  
前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル  
場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキ  
ハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其  
者ト同順位ニ於テ遺産相續人ト為ル  
第九百九十六條 前二條ノ規定ニ依リ  
テ遺産相續人タルヘキ者ナキ場合ニ  
於テ遺産相續ヲ為スヘキ者ノ順位左  
ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 戸主

前項第二號ノ場合ニ於テハ第九百九  
十四條ノ規定ヲ準用ス

第九百九十七條 左ニ掲ケタル者ハ遺  
産相續人タルコトヲ得ス

一 故意ニ被相續人又ハ遺産相續  
ニ付キ先順位若クハ同順位ニ  
在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致

サントシタル為メ刑ニ處セラレタル者

二 第九百六十九條第二號乃至第五號ニ掲ケタル者

第九百九十八條 遺留分ヲ有スル推定遺産相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ為シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ被相續人ハ其推定遺産相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百九十九條 被相續人ハ何時ニテモ推定遺産相續人廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第一千條 第九百七十六條及ヒ第九百七十八條ノ規定ハ推定遺産相續人ノ廢除及ヒ其取消ニ之ヲ準用ス

第三節 遺産相續ノ效力

第一款 總則

第一千一條 遺産相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ

權利義務ヲ承継ス但被相続人ノ一身  
ニ專屬セシモノハ此限ニ在ラス

第一千二條 遺産相続人數人アルトキハ  
相続財産ハ其共有ニ屬ス

第一千三條 各共同相続人ハ其相続分ニ  
應ジテ被相続人ノ權利義務ヲ承継ス

第二款 相続分

第一千四條 同順位ノ相続人數人アルト  
キハ其各自ノ相続分ハ相均シキモノ  
トス但直系卑屬數人アルトキハ庶子

及ヒ私生子ノ相続分ハ嫡出子ノ相続  
分ノ二分ノ一トス

第一千五條 第九百九十五條ノ規定ニ依  
リテ相続人タル直系卑屬ノ相続分ハ  
其直系尊屬カ受クヘカリシモノニ同  
シ但直系卑屬數人アルトキハ其各自  
ノ直系尊屬カ受クヘカリシ部分ニ付  
前條ノ規定ニ從ヒテ其相続分ヲ定ム  
第一千六條 被相続人ハ前二條ノ規定ニ拘  
ハラズ遺言ヲ以テ共同相続人ノ相続分ヲ定

メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委  
託スルコトヲ得但被相続人又ハ第三  
者ハ遺留分ニ關スル規定ニ違反スル  
コトヲ得ス  
被相続人カ共同相続人中ノ一人若ク  
ハ數人ノ相続分ノミヲ定メ又ハ之ヲ  
定メシメタルトキハ他ノ共同相続人  
ノ相続分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之  
ヲ定ム

第一千七條

共同相続人中被相続人ヨリ

遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻養子縁組分家廢  
絶家再興ノ為メ若クハ生計ノ資本ト  
シテ贈與ヲ受ケタル者アルトキハ被  
相続人カ相続開始ノ時ニ於テ有セシ  
財産ノ價額ニ其贈與ノ價額ヲ加ヘタ  
ルモノヲ相続財産ト看做シ前三條ノ  
規定ニ依リテ算定シタル相続分ノ中  
ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ  
其殘額ヲ以テ其者ノ相続分トス  
遺贈又ハ贈與ノ價額カ相続分ノ價額

ニ等シク又ハ之ニ超ユルトキハ受遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受クルコトヲ得ス

被相續人カ前二項ノ規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ハ遺留分ニ關スル規定ニ反セサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス

第一千八條 前條ニ掲ケタル贈與ノ價額ハ受贈者ノ行為ニ因リ其目的タル財産カ減失シ又ハ其價格ノ増減アリタ

ルトキト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原狀ニテ存スルモノト看做シテ之ヲ定ム

第一千九條 共同相續人ノ一人カ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相續人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受クルコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ一个月内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第三款 遺産ノ分割

第一千十條 被相續人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ

第三者ニ委託スルコトヲ得

第一千十一條 被相續人ハ遺言ヲ以テ相

續開始ノ時ヨリ五年ヲ超エサル期間

内分割ヲ禁スルコトヲ得

第一千十二條 遺産ノ分割ハ相續開始ノ

時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第一千十三條 各共同相續人ハ相續開始

前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ賣主ト同シク其相續分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第一千十四條 各共同相續人ハ其相續分

ニ應シ他ノ共同相續人カ分割ニ因リ

テ受ケタル債權ニ付キ分割ノ當時ニ

於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

辨濟期ニ在ラサル債權及ヒ停止條件

附債權ニ付テハ各共同相續人ハ辨濟

ヲ為スヘキ時ニ於ケル債務者ノ資力

ヲ擔保ス

第一千十五條 擔保ノ責ニ任スル共同相  
續人中償還ヲ為ス資力ナキ者アルト  
キハ其償還スルコト能ハサル部分ハ  
求償者及ヒ他ノ資力アル者各其相續  
分ニ應シテ之ヲ分擔ス但求償者ニ過  
失アルトキハ他ノ共同相續人ニ對シ  
テ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第一千十六條 前三條ノ規定ハ被相續人  
カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタ

ルトキハ之ヲ適用セス

### 第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄

#### 第一節 總則

第一千十七條 相續人ハ自己ノ為メニ相  
續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時  
ヨリ三個月内ニ單純若クハ限定ノ承  
認又ハ拋棄ヲ為スコトヲ要ス但此期  
間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因  
リ裁判所ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ  
得

相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ為ス前ニ相續財産ノ調査ヲ為スコトヲ得

第千十八條 相續人カ承認又ハ拋棄ヲ為サスレテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相續人カ自己ノ為メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第千十九條 相續人カ無能力者ナルトキハ第千十七條第一項ノ期間ハ其法定代理人カ無能力者ノ為メニ相續ノ

開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第千二十條 法定家督相續人ハ拋棄ヲ為スコトヲ得ス但第九百八十四條ニ掲ケタル者ハ此限ニ在ラス

第千二十一條 相續人ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スルコトヲ要ス但承認又ハ拋棄ヲ為シタルトキハ此限ニ在ラス  
裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求



ニ因リ何時ニテモ相續財産ノ保存ニ  
必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得  
裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ  
於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ  
規定ヲ準用ス

第一千二十二條 承認及ヒ拋棄ハ第十  
七條第一項ノ期間内ト雖モ之ヲ取消  
スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ第一編及ヒ前編ノ規定  
ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ為ス

コトヲ妨ケス但其取消權ハ追認ヲ為  
スコトヲ得ル時ヨリ六個月間之ヲ行  
ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス承  
認又ハ拋棄ノ時ヨリ十年ヲ經過シタ  
ルトキ亦同シ

第二節 承認

第一款 單純承認

第一千二十三條 相續人カ單純承認ヲ為  
シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利  
義務ヲ承継ス

第一千二十四條 左ニ掲ケタル場合ニ於

テハ相續人ハ單純承認ヲ為シタルモ  
ノト者做ス

- 一 相續人カ相續財産ノ全部又ハ  
一部ヲ處分シタルトキ但保存  
行為及ヒ第六百二條ニ定メタ  
ル期間ヲ超エサル借貸ヲ為ス  
ハ此限ニ在ラス
- 二 相續人カ第一千十七條第一項ノ  
期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ

為ササリシトキ

三 相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ

為シタル後ト雖モ相續財産ノ  
全部若クハ一部ヲ隱匿シ、私ニ  
之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之  
ヲ財産目録中ニ記載セサリシ  
トキ但其相續人カ拋棄ヲ為シ  
タルニ因リテ相續人ト為リタ  
ル者カ承認ヲ為シタル後ハ此  
限ニ在ラス

第二款 限定承認

第一千二十五條 相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨済スヘキコトヲ留保シテ承認ヲ為スコトヲ得

第一千二十六條 相續人カ限定承認ヲ為サント欲スルトキハ第一千十七條第一項ノ期間内ニ財産目録ヲ調製シテ之ヲ裁判所ニ提出シ限定承認ヲ為ス旨ヲ申述スルコトヲ要ス

第一千二十七條 相續人カ限定承認ヲ為シタルトキハ其被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セサシモノト看做ス

第一千二十八條 限定承認者ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス  
第六百四十五條第六百四十六條第六百五十條第一項第二項及ヒ第一千二百一十條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場

合ニ之ヲ準用ス

第一千二十九條 限定承認者ハ限定承認  
ヲ為シタル後五日內ニ一切ノ相續債  
權者及ヒ受遺者ニ對シ限定承認ヲ為  
シタルコト及ヒ一定ノ期間內ニ其請  
求ノ申出ヲ為スヘキ旨ヲ公告スルコ  
トヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコ  
トヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定  
ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千三十條 限定承認者ハ前條第一項  
ノ期間滿了前ニハ相續債權者及ヒ受  
遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第一千三十一條 第一千二十九條第一項ノ  
期間滿了ノ後ハ限定承認者ハ相續財  
産ヲ以テ其期間內ニ申出テタル債權  
者其他知レタル債權者ニ各其債權額  
ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ為スコトヲ要  
ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ  
害スルコトヲ得ス

第一千三十二條 限定承認者ハ辨濟期ニ  
至ラサル債權ト雖モ前條ノ規定ニ依  
リテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス  
條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナ  
ル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑  
定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコ  
トヲ要ス

第一千三十三條 限定承認者ハ前二條ノ  
規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ為シ  
タル後ニ非サレハ受遺者ニ辨濟ヲ為

スコトヲ得ス

第一千三十四條 前三條ノ規定ニ從ヒテ  
辨濟ヲ為スニ付キ相續財産ノ賣却ヲ  
必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ  
競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ  
於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ  
相續財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨  
濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得  
第一千三十五條 相續債權者及ヒ受遺者  
ハ自己ノ費用ヲ以テ相續財産ノ競賣

又ハ鑑定ニ参加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第千三十六條 限定承認者カ第千二十九條ニ定メタル公告若クハ催告ヲ為スコトヲ怠リ又ハ同條第一項ノ期間内ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ為シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ為スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損

害ヲ賠償スル責ニ任ス第千三十條乃至第千三十三條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ為シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對スル他ノ債權者又ハ受遺者ノ求償ヲ妨ケス

第七百二十四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第千三十七條 第千二十九條第一項ノ

期間内ニ申出テサリシ債權者及ヒ受  
遺者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ  
者ハ残余財産ニ付テ、其權利ヲ行  
フコトヲ得但相續財産ニ付キ特別擔  
保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

### 第三節 拋棄

第一千三十八條 相續ノ拋棄ヲ為サント  
欲スル者ハ其旨ヲ裁判所ニ申述スル  
コトヲ要ス

第一千三十九條 拋棄ハ相續開始ノ時ニ

遡リテ其效力ヲ生ス

數人ノ遺産相續人アル場合ニ於テ其  
一人カ拋棄ヲ為シタルトキハ其相續  
分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ之  
ニ歸屬ス

第一千四十條 相續ノ拋棄ヲ為シタル者  
ハ其拋棄ニ因リテ相續人ト為リタル  
者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ  
得ルマテ自己ノ財産ニ於ケルト同一  
ノ注意ヲ以テ其財産ノ管理ヲ繼續ス

ルコトヲ要ス

第六百四十五條第六百四十六條第六百五十條第一項第二項及ヒ第千二十一條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

#### 第四章 財産ノ分離

第千四十一條 相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノ時ヨリ三個月内ニ相續人ノ財産中ヨリ相續財産ヲ分離セシムコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其

期間満了ノ後ト雖モ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間亦同ニ裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財産ノ分離ヲ命シタルトキハ其請求ヲ為シタル者ハ五日内ニ他ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ財産分離ノ命令アリタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ配當加入ノ申出ヲ為スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス



第一千四十二條 財産分離ノ請求ヲ為シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ配當加入ノ申出ヲ為シタル者ハ相續財産ニ付キ相續人ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ク

第一千四十三條 財産分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相續財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ

規定ヲ準用ス

第一千四十四條 相續人ハ單純承認ヲ為シタル後ト雖モ財産分離ノ請求アリタルトキハ爾後其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ為スコトヲ要ス但裁判所ニ於テ管理人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十五條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條第一項第二項ノ規

定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十五條 財産ノ分離ハ不動産ニ

付テハ其登記ヲ為スニ非サレハ之ヲ

以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一千四十六條 第三百四條ノ規定ハ財

産分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十七條 相續人ハ第一千四十一條

第一項及ヒ第二項ノ期間滿了前ニハ

相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟

ヲ拒ムコトヲ得

財産分離ノ請求アリタルトキハ相續

人ハ第一千四十一條第二項ノ期間滿了

ノ後相續財産ヲ以テ財産分離ノ請求

又ハ配當加入ノ申出ヲ為シタル債權

者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應

ジテ辨濟ヲ為スコトヲ要ス但優先權

ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコト

ヲ得ス

第一千三十二條乃至第一千三十六條ノ規

定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十八條 財産分離ノ請求ヲ為シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ為シタル者ハ相續財産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ限リ相續人ノ固有財産ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ相續人ノ債權者ハ其者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第千四十九條 相續人ハ其固有財産ヲ以テ相續債權者若クハ受遺者ニ辨濟

ヲ為シ又ハ之ニ相當ノ擔保ヲ供シテ財産分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相續人ノ債權者カ之ニ因リテ損害ヲ受クヘキコトヲ證明シテ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第千五十條 相續人カ限定承認ヲ為スユトヲ得ル間又ハ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間ハ其債權者ハ財産分離ノ請求ヲ為スコトヲ得

第三百四條、第千二十七條、第千二十九條乃至第千三十六條、第千四十三條乃至第千四十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千二十九條ニ定メタル公告及ヒ催告ハ財産分離ノ請求ヲ為シタル債權者之ヲ為スコトヲ要ス

第五章 相續人ノ曠缺

第千五十一條 相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財産ハ之ヲ法人ト

ス

第千五十二條 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財産ノ管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滞ナク管理人ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

第千五十三條 第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ相續財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第一千五十四條 管理人ハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相續財産ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス  
第一千五十五條 相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立セサリシモノト者做ス但管理人カ其權限内ニ於テ為シタル行為ノ效力ヲ妨ケス

第一千五十六條 管理人ノ代理權ハ相續人カ相續ノ承認ヲ為シタル時ニ於テ

消滅ス

前項ノ場合ニ於テハ管理人ハ遲滞ナク相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ為スコトヲ要ス

第一千五十七條 第一千五十二條第二項ニ定メタル公告アリタル後二个月内ニ相續人アルコト分明ナルニ至ラサルトキハ管理人ハ遲滞ナク一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ為スヘキ旨ヲ公

告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月  
ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項第三項及ヒ第千三  
十條乃至第千三十七條ノ規定ハ前項  
ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千三十四條  
但書ノ規定ハ此限ニ在ラス

第千五十八條 前條第一項ノ期間滿了  
ノ後仍ホ相續人アルコト分明ナラサ  
ルトキハ裁判所ハ管理人又ハ檢事ノ  
請求ニ因リ相續人アラハ一定ノ期間

内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告ス  
ルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ル  
コトヲ得ス

第千五十九條 前條ノ期間内ニ相續人  
タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相  
續財産ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テ  
ハ第千五十六條第二項ノ規定ヲ準用  
ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シ  
テ其權利ヲ行フコトヲ得ス

第六章 遺言

第一節 總則

第一千六十條 遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ従フニ非サレハ之ヲ為スコトヲ得ス

第一千六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ為スコトヲ得

第一千六十二條 第四條第九條第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス

第一千六十三條 遺言者ハ遺言ヲ為ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一千六十四條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第一千六十五條 第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第一千六十六條 被後見人カ後見ノ計算

終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑属ノ利益ト為ルヘキ遺言ヲ為シタルトキハ其遺言ハ無效トス前項ノ規定ハ直系血族配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

## 第二節 遺言ノ方式

### 第一款 普通方式

第千六十七條 遺言ハ自筆證書公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ為スコ

トヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第千六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ為スニハ遺言者其全文日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス自筆證書中ノ挿入削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其效ナシ



第千六十九條

公正證書ニ依リテ遺言

ヲ為スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

- 一 證人二人以上ノ立會アルコト
- 二 遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト
- 三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト
- 四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五

公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作りタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名捺印スルコト

第千七十條

秘密證書ニ依リテ遺言ヲ

為スニハ左ノ方式ニ従フコトヲ要ス

一 遺言者カ其證書ニ署名捺印スルコト

二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用井ヒタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト

三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封印ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名住所ヲ申述スルコト

ト

四 公證人カ其證書提出ノ日附及

ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載

シタル後遺言者及ヒ證人ト共

ニ之ニ署名捺印スルコト

第千六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第千七十一條 秘密證書ニ依ル遺言ハ

前條ニ定メタル方式ニ缺クルモノアルモ第千六十八條ノ方式ヲ具備スル

トキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其  
効力ヲ有ス

第千七十二條 言語ヲ發スルコト能ハ  
サル者カ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ為  
ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ  
證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言  
書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名住所ヲ封  
紙ニ自書シテ第千七十條第一項第三  
號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス  
公證人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方

式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申  
述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

第千七十三條 禁治産者カ本心ニ復シ  
タル時ニ於テ遺言ヲ為スニハ醫師二  
人以上ノ立會アルコトヲ要ス  
遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺  
言ヲ為ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ  
在ラサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之  
ニ署名捺印スルコトヲ要ス但秘密證  
書ニ依リテ遺言ヲ為ス場合ニ於テハ

其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名捺印ヲ為  
スコトヲ要ス

第一千七十四條 左ニ掲ケタル者ハ遺言

ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

一 未成年者

二 禁治産者及ヒ準禁治産者

三 剝奪公權者及ヒ停止公權者

四 遺言者ノ配偶者

五 推定相續人受遺者及ヒ其配偶  
者竝ニ直系血族

六 公證人ト家ヲ同シクスル者及  
ヒ公證人ノ直系血族竝ニ筆生

雇人

第一千七十五條 遺言ハ二人以上同一ノ

證書ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得ス

第二欸 特別方式

第一千七十六條 疾病其他ノ事由ニ因リ

テ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ

為サント欲スルトキハ證人三人以上

ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ

口授シテ之ヲ為スコトヲ得此場合ニ  
於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記  
シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ  
各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認  
シタル後之ニ署名捺印スルコトヲ要  
ス

前項ノ規定ニ依リテ為シタル遺言ハ  
遺言ノ日ヨリ二十日内ニ證人ノ一人  
又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シ  
テ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ真意ニ出テ  
タル心證ヲ得ルニ非サレハ之ヲ確認  
スルコトヲ得ス

第千七十七條 傳染病ノ為メ行政處分  
ヲ以テ交通ヲ遮断シタル場所ニ在ル  
者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ  
立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得  
第千七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬  
ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人  
以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコト

ヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ  
在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人  
ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷  
疾ノ為メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫  
師ヲ以テ前項ニ掲ケタル將校又ハ相  
當官ニ代フルコトヲ得

第十七十九條 從軍中疾病傷疾其他ノ  
事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル  
軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會

ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ為スコトヲ得  
前項ノ規定ニ從ヒテ為シタル遺言ハ  
證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名捺印  
シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ  
遲滞ナク理事又ハ主理ニ請求シテ其  
確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

第十七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第十八十條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及  
ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ

相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ  
船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及  
ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書  
ヲ作ルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ  
其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又  
ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ  
得

第千八十一條 第千七十九條ノ規定ハ  
艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍

ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺  
言ヲ為シタル場合ニ於テハ其確認ハ  
之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス  
第千八十二條 第千七十七條第千七十  
八條及ヒ第千八十條ノ場合ニ於テハ  
遺言者筆者立會人及ヒ證人ハ各自遺  
言書ニ署名捺印スルコトヲ要ス  
第千八十三條 第千七十七條乃至第千  
八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印  
スルコト能ハサル者アルトキハ立會

人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコト  
ヲ要ス

第千八十四條 第千六十八條第二項及  
ヒ第千七十三條乃至第千七十五條ノ  
規定ハ前八條ノ規定ニ依ル遺言ニ之  
ヲ準用ス

第千八十五條 前九條ノ規定ニ依リテ  
為シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ  
依リテ遺言ヲ為スコトヲ得ルニ至リ  
タル時ヨリ六個月間生存スルトキハ

其效ナシ

第千八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル  
地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ秘密  
證書ニ依リテ遺言ヲ為サント欲スル  
トキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

第三節 遺言ノ效力

第千八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ  
時ヨリ其效力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於  
テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シ



タルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ  
其效力ヲ生ス

第一千八十八條 受遺者ハ遺言者ノ死亡  
後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ為スコト  
ヲ得

遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡  
リテ其效力ヲ生ス

第一千八十九條 遺贈義務者其他ノ利害  
關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内  
ニ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ為スヘキ旨

ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受  
遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シ  
テ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ  
承認シタルモノト看做ス

第一千九十條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ  
拋棄ヲ為サスシテ死亡シタルトキハ  
其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ  
於テ承認又ハ拋棄ヲ為スコトヲ得但  
遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示  
シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十一條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スルコトヲ得ス

第一千二十二條 第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス

第一千九十二條 包括受遺者ハ遺産相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第一千九十三條 受遺者ハ遺贈カ辨濟期ニ至ラサル間ハ遺贈義務者ニ對シテ

相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定

ノ間亦同シ

第一千九十四條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ

請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十五條 遺贈義務者カ遺言者ノ

死亡後遺贈ノ目的ニ付キ費用ヲ出タシタルトキハ第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス

果實ヲ收取スル為メニ出タシタル通

常、必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル  
限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ  
得

第千九十六條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前

ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力  
ヲ生セス

停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其  
條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同  
シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ  
表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十七條 遺贈カ其效力ヲ生セサ

ルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ  
至リタルトキハ受遺者カ受クヘカリ  
シモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ  
其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルト  
キハ其意思ニ從フ

第千九十八條 遺贈ハ其目的タル權利

カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財産  
ニ屬セサルトキハ其效力ヲ生セス但  
其權利カ相續財産ニ屬セサルコトア

ルニ拘ハラズ之ヲ以テ遺贈ノ目的ト  
為シタルモノト認ムヘキトキハ此限  
ニ在ラス

第一千九十九條 相續財産ニ属セサル權  
利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規  
定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務  
者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ  
移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得ス  
ルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スル  
ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其

價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者  
カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタル  
トキハ其意思ニ從フ

第一千百條 不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的  
ト為シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪  
ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ  
對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス  
前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタル  
トキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以  
テ之ニ代フルコトヲ要ス

第一千一百一條 遺言者カ遺贈ノ目的物ノ  
滅失若クハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ  
因リ第三者ニ對シテ償金ヲ請求スル  
權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺  
贈ノ目的ト為シタルモノト推定ス  
遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混  
和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百  
四十三條乃至第二百四十五條ノ規定  
ニ依リ合成物又ハ混和物ノ單獨所有  
者又ハ共有者ト為リタルトキハ其全

部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ  
目的ト為シタルモノト推定ス

第一千一百二條 遺贈ノ目的タル物又ハ權  
利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者  
ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺  
贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシム  
ヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス但遺言  
者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタ  
ルトキハ此限ニ在ラス

第一千一百三條 債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト

為シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取りタル物カ尚ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト為シタルモノト推定ス  
金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト為シタルモノト推定ス

第一千百四條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度

ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス

受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ為シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト為ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百五條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者

ハ其減少ノ割合ニ應シテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第四節 遺言ノ執行

第一千百六條 遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滞ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦

同シ

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セス

封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第一千百七條 前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ為シタル者ハ二百圓以

下ノ過料ニ處セラレ

第一千零八條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人  
又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ  
其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得  
遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者  
ハ遲滞ナク其指定ヲ為シテ之ヲ相續  
人ニ通知スルコトヲ要ス  
遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者  
カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滞  
ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ

要ス

第一千百九條 遺言執行者カ就職ヲ承諾  
シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコ  
トヲ要ス

第一千百十條 相續人其他ノ利害關係人  
ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職  
ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ  
遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ  
遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對  
シテ確答ヲ為ササルトキハ就職ヲ承



諾シタルモノト者做ス

第一千百十一條 無能力者及ヒ破産者ハ

遺言執行者タルコトヲ得ス

第一千百十二條 遺言執行者ナキトキ又

ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ

利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任ス

ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言

執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ

就職ヲ拒ムコトヲ得ス

第一千百十三條 遺言執行者ハ遲滞ナク

相續財産ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續

人ニ交付スルコトヲ要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキ

ハ其立會ヲ以テ財産目錄ヲ調製シ又

ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコ

トヲ要ス

第一千百十四條 遺言執行者ハ相續財産

ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一

切ノ行為ヲ為ス權利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條  
及第七百五十條ノ規定ハ遺言執行  
者ニ之ヲ準用ス

第一千百十五條 遺言執行者アル場合ニ  
於テハ相續人ハ相續財産ヲ處分シ其  
他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行為ヲ為ス  
コトヲ得ス

第一千百十六條 前三條ノ規定ハ遺言カ  
特定財産ニ關スル場合ニ於テハ其財  
産ニ付テノミ之ヲ適用ス

第一千百十七條 遺言執行者ハ之ヲ相續  
人ノ代理人ト看做ス

第一千百十八條 遺言執行者ハ已ムコト  
ヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者  
ヲシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得  
ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ  
表示シタルトキハ此限ニ在ラス  
遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ  
第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場  
合ニ於テハ相續人ニ對シ第百五條ニ

定メタル責任ヲ負フ

第一千百十九條 數人ノ遺言執行者アル  
場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半数  
ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ  
別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意  
思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラ  
ス保存行為ヲ為スコトヲ得

第一千百二十條 遺言執行者ハ遺言ニ報  
酬ヲ定メタルトキニ限り之ヲ受クル

コトヲ得

裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタ  
ルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬  
ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ  
於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第  
三項ノ規定ヲ準用ス

第一千百二十一條 遺言執行者カ其任務  
ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アル  
トキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所

ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

第一千百二十二條 第六百五十四條及ヒ

第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千百二十三條 遺言ノ執行ニ關スル

費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因

リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

### 第五節 遺言ノ取消

第一千百二十四條 遺言者ハ何時ニテモ

遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スルコトヲ得

第一千百二十五條 前ノ遺言ト後ノ遺言

ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處

分其他ノ法律行為ト抵触スル場合ニ  
之ヲ準用ス

第一千二百二十六條 遺言者カ故意ニ遺言  
書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル  
部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノ  
ト者做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的  
物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第一千二百二十七條 前三條ノ規定ニ依リ  
テ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行為  
カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至

リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス  
但其行為カ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合  
ハ此限ニ在ラス

第一千二百二十八條 遺言者ハ其遺言ノ取  
消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一千二百二十九條 負擔附遺贈ヲ受ケタ  
ル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサ  
ルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メ  
テ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履  
行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ

請求スルコトヲ得

第七章 遺留分

第一千百三十條 法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク

此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千百三十一條 遺產相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク

遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千百三十二條 遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑

定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定ム  
家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留  
分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セ  
ス

第一千百三十三條 贈與ハ相續開始前一  
年間ニ為シタルモノニ限り前條ノ規  
定ニ依リテ其價格ヲ算入ス一年前ニ  
為シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺  
留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知  
リテ之ヲ為シタルトキ亦同シ

第一千百三十四條 遺留分權利者及ヒ其  
承継人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナ  
ル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタ  
ル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得  
第一千百三十五條 條件附權利又ハ存續  
期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又  
ハ遺贈ノ目的ト為シタル場合ニ於テ  
其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキ  
トキハ遺留分權利者ハ第一千百三十二  
條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價

格ニ從ヒ直チニ其残部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給付スルコトヲ要ス

第千百三十六條 贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

第千百三十七條 遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千百三十八條 贈與ノ減殺ハ後ノ贈

與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第千百三十九條 受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尚ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス

第千百四十條 減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ遺

留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第千百四十一條 負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルコト



ヲ得

第千百四十二條 不相當ノ對價ヲ以テ  
為シタル有償行為ハ當事者雙方カ遺  
留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知  
リテ為シタルモノニ限り之ヲ贈與ト  
看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ  
其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償  
還スルコトヲ要ス

第千百四十三條 減殺ヲ受クヘキ受贈  
者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタル

トキハ遺留分權利者ニ其價額ヲ辨償  
スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當  
時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコト  
ヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之  
ニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ  
上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準  
用ス

第千百四十四條 受贈者及ヒ受遺者ハ  
減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ

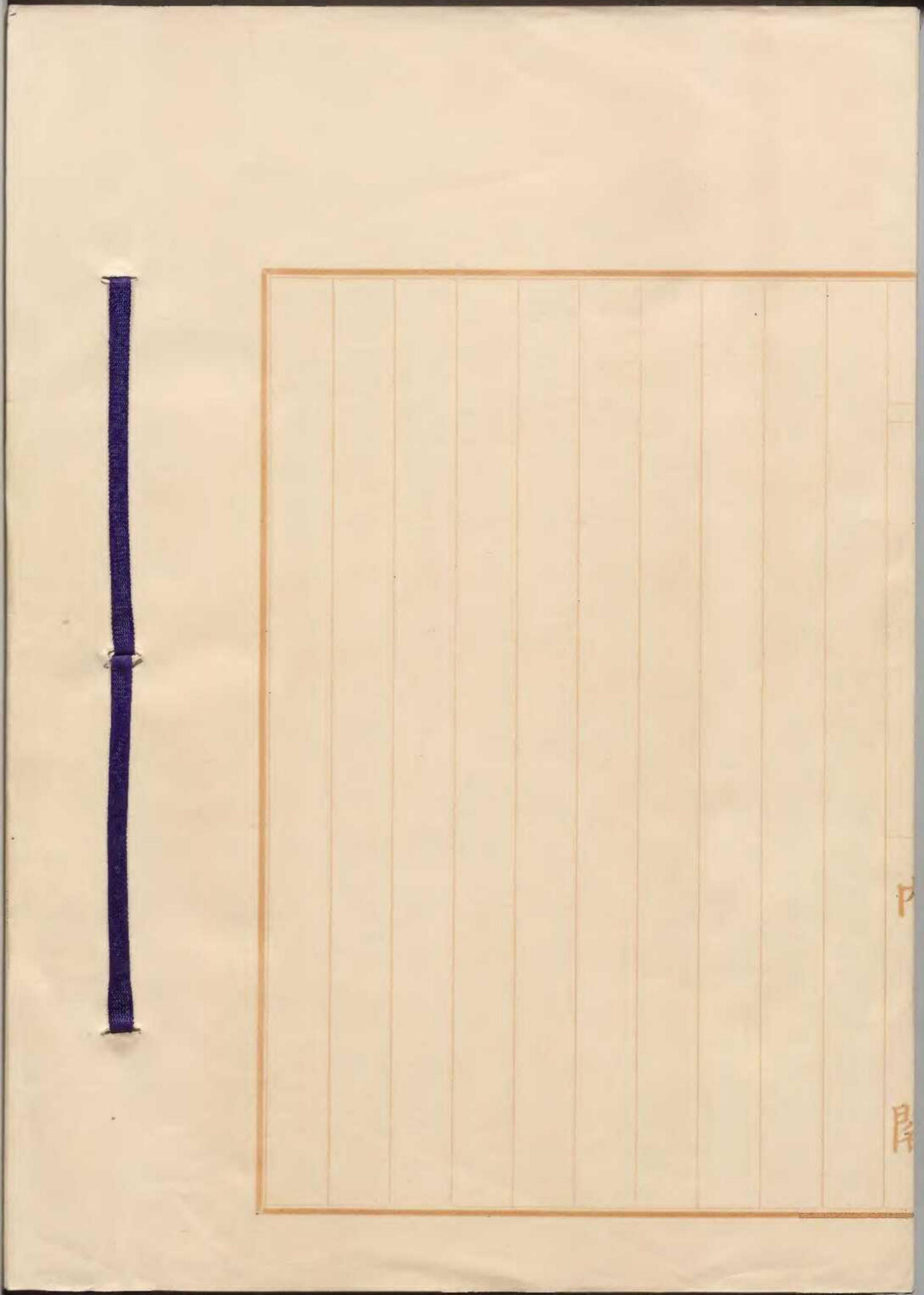
均 開

遺贈ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ  
辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ  
得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合  
ニ之ヲ準用ス

第一千百四十五條 減殺ノ請求權ハ遺留  
分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘ  
キ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知り  
タル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキ  
ハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時

ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ  
第一千百四十六條 第九百九十五條第一千  
四條第一千五條第一千七條及ヒ第一千八條  
ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス



P

冊